第４回北秋田市発明工夫展審査講評

今年度は昨年度より２点多い、合計４１点の応募がありました。一つ一つの作品にこめられた子どもたちの夏休みの思い出や思いにふれることができ、大変うれしく思いながら審査いたしました。

審査に当たっては、例年通り実際に手を触れて動かしたり、スイッチを入れて光らせたり、貯金箱はお金を入れて動きを確かめたりなどしながら行いました。審査に当たって大切にした視点は次の２つです。

①アイディアや工夫が見られるか。

②子どもらしい発想や思いが感じられるか。

特選に選ばれた５作品について、審査員からの感想を紹介します。

市長賞	学校名	鷹巣南小学校	４年	氏名	佐藤　響
作品名	『シップ楽にはれ～る』				
講評	手の届かない背中にも一人でシップを貼れるようにしてあげたいという家族への優しい思いと身近にある家庭用のクリーナーを用いるというアイディアに優れた作品です。 スポンジを丸くカットして貼り付ける部分がうまく動くようにしたところ、シップを裏返しにおけるようにマジックテープを用いたところが工夫されています。各部分を固定するために用いたセロハンテープのところは工夫が欲しいところです。				

教育委員長賞	学校名	鷹巣小学校	２年	氏名	畠山　鈴音
作品名	『ランラン　ラビット　ちょ金ばこ』				
講評	お金を入れるたびに中のうさぎがニンジンを追って回転する、大変楽しくかわいらしい作品です。 食べ物の容器や紙粘土など身近にある素材をうまく活用していること、ウサギやニンジンなど細かい部分も大変ていねいに仕上げていることに感心しました。お弁当のしきりを使った草の雰囲気もとてもよく表れています。たまったお金がもう少し取り出しやすいようになればさらによいと思います。				

議長賞	学校名	綴子小学校	２年	氏名	畠山　拓也
作品名	『おばけのちょきんばこ』				
講評	お金を入れるたびにかわいいおばけが顔をのぞかせて、涼しくしてくれる夏らしい作品です。 お金を入れるとその重さによっておばけがつり上げられて顔を出すというシーソーの原理がうまく用いられています。入れるお金の重さとおばけの動きのバランスがよくとれています。いきなりおばけが顔を出すようにもう少し工夫できればお金を入れた人がびっくりするでしょう。				

教育長賞	学校名	綴子小学校	４年	氏名	三沢　紘汰
作品名	『とび出す夏の思い出』				
講評	大切にしたい夏休みの思い出とすもう大会の活躍の様子がぎっしりとつまったこの世に一冊しかない大切な本ができました。開くと思い出の一場面がポンと飛び出してくるダイナミックな作品になっています。土俵のたわらの感じがよく表れるようにていねいに作られており、感心しました。 これからも思い出のページがふえるようにすもうの練習をがんばってください。				

審査委員長賞	学校名	米内沢小学校	５年	氏名	木村　太成
作品名	『リサイクルバッティングマシーン』				
講評	一人でいるときにでもバッティングの練習がしたいという強い思いの感じられる作品です。高低差を使ってボール代わりのキャップを落としてミートできるようにしたこと、簡単に上にあげられるようにゴムを用いたところが工夫されています。ペットボトルやキャップを再利用したところもいいと思います。糸が絡みやすいのでそこをもう少し改善できれば練習が充実しそうです。				

特選からもれた作品の中にもすばらしいものがあり、審査に苦労しました。毎日のいろいろな教科の学習や生活の中から工夫できる材料やネタを探し、来年度も多くの作品が出品されることを期待しています。

平成２０年９月

審査委員長　山本　英幸